

YYJKからのお知らせ

「よこはま洋館付き住宅を考える会」では、洋館付き住宅をはじめ貴重な歴史的な建物を未来へ残すための活動を行っています。その活動の一環として、「洋館付き住宅の魅力がわかる本」を発行しております。また、学習会・見学会・展示会等のイベントも順次開催しておりますので、ご興味をお持ちの方はふるってご参加下さい。

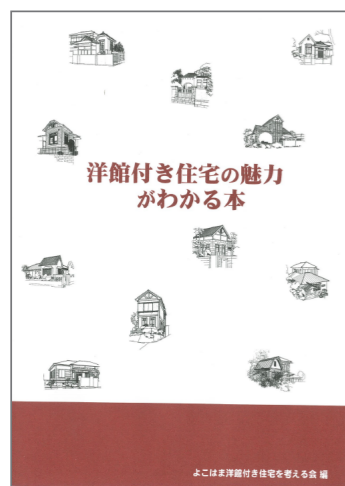
賛助会員を募集しています！！
(年会費 1,000 円)

※ 賛助会員に入会された方には、会報「ハイカラくらしすまい通信」をお送りするほか、各種イベントのお知らせもお送りいたします。

■ 振込先：郵便振替口座 00200-4-68787 よこはま洋館付き住宅を考える会

販売書籍のお知らせ

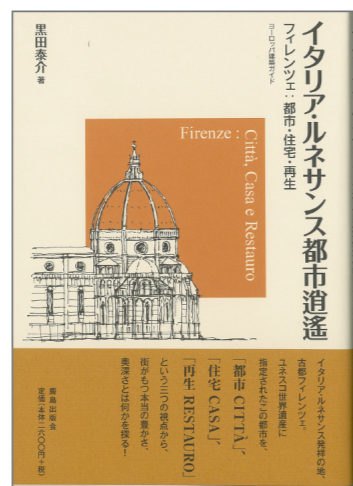
(※ 購入のお申し込みは Eメールで yyjk@usc.yokohama まで)



『洋館付き住宅の魅力がわかる本』

洋館付き住宅の魅力や大正・昭和の暮らしの文化をわかりやすいイラストで案内するハンドブック。

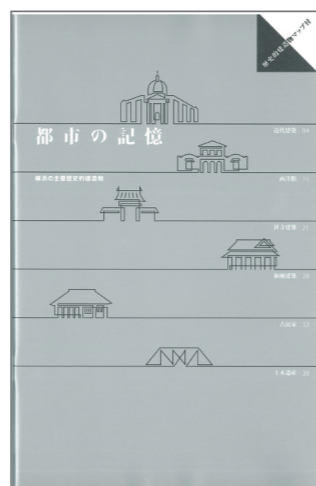
価格：800 円 (税込)
送料：100 円
発行者：
よこはま洋館付き住宅を考える会



『イタリア・ルネサンス都市逍遙 (しょうよう)』

ルネサンス発祥の地、世界遺産の古都フィレンツェ。都市・住宅・再生の視点から、街が持つ本当の豊かさを紹介する。当会顧問、関東学院大学教授、黒田泰介氏渾身の書き下ろし。

価格：2,600 円 + 消費税
送料：100 円
発行者：鹿島出版会



『都市の記憶』
横浜の主要歴史的建造物
(現在欠品中)

近代建築、西洋館、社寺、古民家、土木遺産など近代都市横浜を象徴する歴史的建造物や文化財建造物を開設付き写真で紹介。ガイド地図を掲載。

価格：700 円 (税込)
送料：100 円
発行者：
公益社団法人横浜歴史資産調査会

「よこはま洋館付き住宅を考える会」のご案内

洋館付き住宅の魅力調べ、楽しみ、住み続けるための支援活動を非営利で進めています。

お問い合わせは下記の事務局まで。

会費 (年額) / 正会員 5,000 円・賛助会員 1,000 円 (一口)・法人会員 10,000 円 (一口)

ハイカラくらしすまい通信 第 48 号 編集・発行：よこはま洋館付き住宅を考える会
〒240-0014 横浜市保土ヶ谷区霞台 47-14 (担当：兼弘) / E-Mail: yyjk@usc.yokohama
TEL: 045-335-7164 / FAX: 045-335-7176 / <http://yyjk.jpn.com/>

よこはま洋館付き住宅を考える会会報

ハイカラくらしすまい通信

第 48 号 2021 年 2 月 1 日発行

鎌倉旧大佛次郎邸 調査報告

島田 真弓

鶴岡八幡宮門前の若宮大路から雪ノ下一丁目の最初の路地交差点で迎えてくれるのが旧大佛次郎邸。2階の高さのある洋館が木造平屋の住宅群を若宮大路の喧騒から守っているよう。見通しのきかない路地が観光客や車を入りにくくし、地元住民にはのどかな通行を確保している。洋館の足元に駐車スペースがあり、向かいの住宅の駐車スペースと併せて迷い車の車返しスペースにもなっている。路地を進むと大佛邸門前に至る。

旧大佛時次郎邸は残念ながら解体されることになりました。記録としての資料作成の依頼を受け、神奈川県建築士会スクランブル調査隊とよこはま洋館付き住宅を考える会で協働し調査しました。



玄関

住まいは大佛自身が間取図を描き、1929 年 (昭和 4 年) 32 歳の時に竣工した洋館付き住宅。膨大な作品が生まれた住居 & 仕事場である。

洋館中 2 階は仕事場で書斎・書庫と寝室。道路際の寝室の安眠を高さと確保している。書庫にはトッライトがあったが、雨漏りがあった



南面全景古写真 (洋館にトッライトがあった)



洋館 (書斎)



洋館 (主寝室)



茶室 (広間)



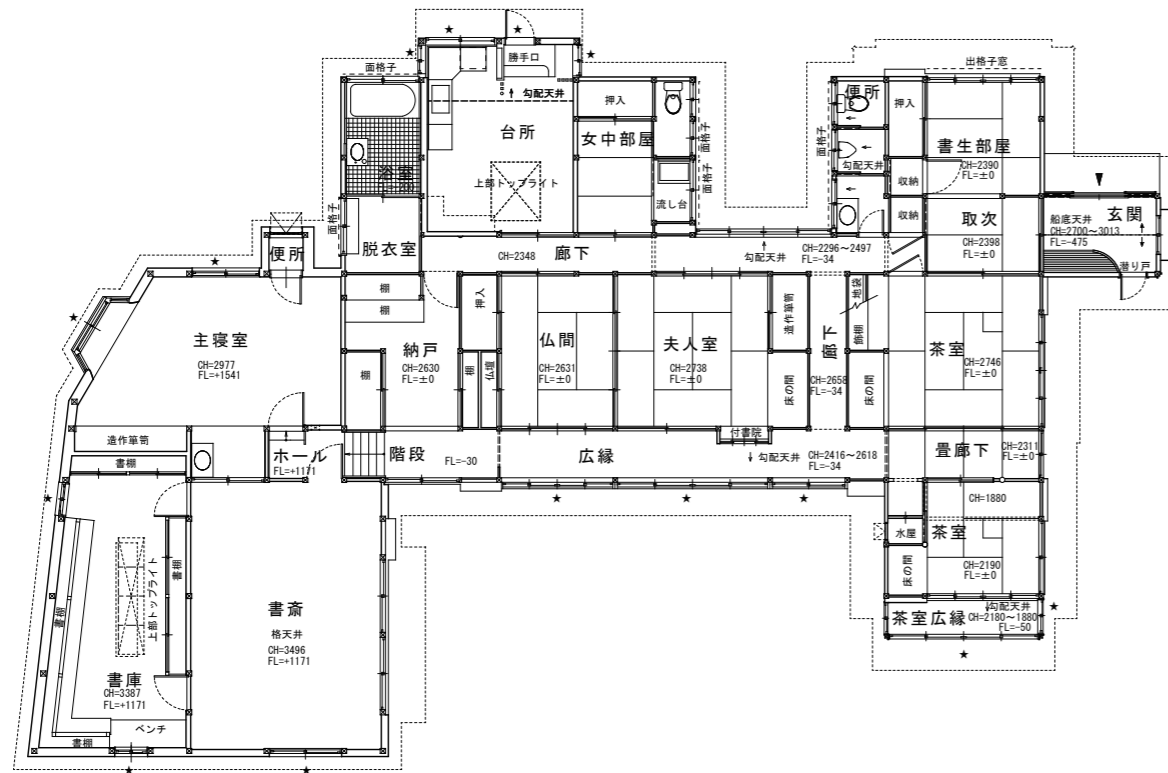
茶室（広間）

のか1979年新たな屋根で洋館全体を覆っている。1階は倉庫で、増え続ける書庫の荷重を支えるために布基礎、土間コンクリート打、一間間隔に合せ梁を書庫～書斎に架けている。駐車スペースに面する倉庫の両開きの扉はまるで人力車の車庫のよう。外壁は例の見ない厚塗りのラスモルタル。和館は二間続きの座敷、台所・浴室等の水廻り生活スペースと客間を兼ねた八畳広間茶室。玄関は茶人である夫人の茶室への待合を兼ね、腰掛脇の潜戸を抜けて庭から茶室にまわる。一方、玄関から取次で迎えられて客間八畳、奥の茶室に続くルートもある。

他にはない「猫の道」も大佛邸にはある。広縁から階段蹴込板を抜けて寝室に自由に入出りできる猫専用通路である。



待合を兼ねた玄関（腰掛の隣にくぐり戸）



畳敷きの洋館



南面外観全景



洋館外観

海と山に囲まれた三浦半島に住みたいと想い、高台で日当たりが良く庭付きの平屋、築50年以上前の家という条件の中、奇跡的な出会いから4年近くが経ちました。1年余りの修繕の中、ケレン調査により判明した洋館部分は建築当時の配色で塗り替えましたが、想定以上のポップカラーに仕上がりました。最初は気恥ずかしかったのですがしかし今は、当時の風景を想像しながら眺めるのも楽しみのひとつです。8畳と6畳の和室は襖を外してリビングとして使い、2人の子供たちもゆったりと1日の大半をこの部屋で過ごしています。古民家って冬寒くない？ってよく聞かれますが意外と気になりません。それよりも古い家ならではの隙間と土壁のおかげなのか、フルで暖房しても結露しないので家と人にとっても健康だと思います。壁が少なく開口部が多いため、夏場は窓を開ければ風の通りがすごく気持ちがいいです。また隙間が多い分、色々な虫が家の中に入ってきますが子供たちも随分と慣れ、外に逃がしたり見つけても放っておいたりたくましくなりました。二間ある洋館のうち、奥の部屋には畳が敷けるよう段差がつけられていたので当時の雰囲気再現したく畳敷にして寝室にしています。この部屋が一番当時の趣を色濃く感じる事ができる空間です。結果的に畳の部屋が多くなりましたが、素足でも夏はさらさら、冬は冷たくなく家族も畳の生活の良さを実感しているようです。建具などは作りが細かいところもあり埃が溜まりやすくマメな掃除が必要ですが、自然素材で造られた家の中の空気は心地良いと感じます。木と土で作られた家は現代の高気密、高断熱の家とは真逆の建物ですが人間と同様に家も呼吸が大切だと感じます。縁側など外と内との間にある曖昧な空間も周りの自然との調和がとれているように感じます。古い家には先人たちの知恵と風土にあった家づくりの創意工夫がみられ、こうした建物に住めることを愉しんでいます。

山手の通りからひときわ目立つ、1923年（関東大震災以降）に建てられた個人宅があります。開港後、外国人居留地として有名な山手地区ですが、関東大震災で壊滅的な被害を受け、多くの外国人達は、横浜を離れていったそうです。そんな中、震災直後に建てられた建物として貴重な存在となっています。居住者の履歴は定かではありませんが、当初は、外国人、その後、日本人へと受け継がれ、戦後は米軍に接収されます。接収されるまで、お父様が幼い頃住んでいたという方の投稿がインターネットで見られ



南面外観

ました。現在も個人の方がお住まいです。元々、外国人居留地は現在の山下町エリアに建設されました。しかし、低湿地なことから山手エリアへの移動を居留者から切望されていました。日本政府はこれを認めなかったようですが、山下町エリアは商業地域として発展していった為、1867年に山手居留地が誕生します。その後、欧米人にとって必要な、教会、学校、墓地、公園などが次々と作られました。地形上（ブラフ＝崖）、山手の住宅で多く見られるのが、門をくぐると玄関は階段を降りた所にあります。このお宅も同様です。そのまま、玄関を通り過ぎると、石畳のお庭に続きます。現在のお庭は、家が増築されて少し狭くなっていますが、当初はここ



玄関扉



レンガ基礎

で、ガーデンパーティーが開かれていたのだろうと想像します。

さあ、中へ入ってみましょう。重厚な玄関をくぐり右側が、応接室、奥がメインの居間へ続きます。以前はここで、お客様を招いて、夕食会などが開かれていたそうです。現在の家主様は、廊下を挟んで反対側の洋室と台所で過ごす事が多いようです。その台所の奥に元女中部屋があります。丁度、門の左の駐車場（現在の駐車場や白い垣根は1993年以降に改修されたもの）の下に位置します。応接室とメインの居間には、洋館住宅の特徴でもある、立派な暖炉が目立ちます。終戦後、横浜は長く接収されていました（山手は1952～55年頃に返還）。この建物も戦前戦後と所有者が変わる中で、少しずつ改修工事が行われてきましたが、暖炉や2段階に折れたマンサード屋根、うろこ模様のスレート葺きなど、当時のよきデザインがきちんと残されています。見た目にはわかりませんが、関東大震災で崩れた沢山のレンガがこの家の地面の下に埋まっています。崩れたレンガはこの他の山手の住宅や山下公園の地面の下にもたくさん埋まっています。開港後の華やかな横浜、関東大震災前のレンガ、終戦後の接収など沢山の歴史が詰まったこの土地、住宅が、今後も大事に残されていくことを切に願っております。



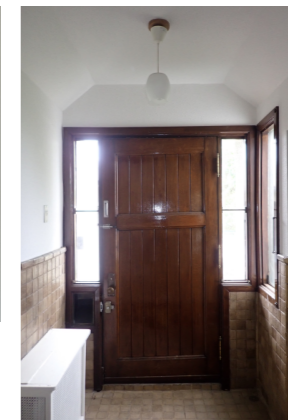
暖炉

横浜山手地区に所在する西洋館「山手133番館（横浜市認定歴史的建造物）」の保存修復工事が2021年8月に着工されました。

山手133番館は、1930年に外国人向け住宅として建設された後、1945～1953年の米軍接収期間を除き、貸家として利用されていました。所有者の株式会社三陽物産・山本博士社長は、可能な限り建築当初の姿に近づけて復元する意向であり、YYJK・兼弘代表率いる株式会社ユー・エス・シーに調査・改修設計を依頼の上、ついに着工へ至りました。（※ 工事の詳細は次回会報にて報告します！）

133番館は工事後、賃貸住宅としての活用も検討されています。所有する生家または実家を改修して住み続ける事例が多い中、民間法人が歴史的建造物を購入し、改修後に貸家として賃貸するケースは少なく、山手地区における洋館活用の新たな一面が見出せるのではないかと感じています。

山手地区の異国情緒あふれる歴史的街並みに、改修を終えた133番館が仲間入りすることが今から楽しみです。



南側外観復元予定図

工事前の宮下邸は国道16号に面して大きな敷地にうっそうと茂る植栽で、昭和8年頃築のL字型配置の2階建て洋館付き住宅の洋館の一部しか覗き見ることができない状態でした。

2020年6月所有者の宮下氏よりYYJKへご相談の連絡があり、会員による見学をさせていただきました。

見学の後、保全改修の難しさや伝統工法、国登録有形文化財の登録、耐震補強などについてお話したところ、その場でYYJKに保全改修工事を依頼され、早速現況間取りの確認調査を見学した参加者で行いました。

長期間の空家状態で獣害や各所の劣化も顕在化し、洋館部裏側は基礎沈下も生じていました。まずは事前調査の一環として害獣被害の対策に内部の一部解体も実施し、小屋裏から床下まで詳細な現況調査を行い、各種現況図面と簡単な調査報告を同年10月末まとめて宮下氏へ提示しました。

現況図を基に宮下氏と保全改修内容を協議した中、特に宮下氏は原型を損なわずほぼ創建時の姿に復元することが最も強いご希望でした。



洋館2階外観



和館屋根と洋館外観



玄関の下足入とベンチ

保全改修工事の上で重要な耐震補強計画ですが、耐震化には解体が伴うが、それすらも避けたいお気持ちが勝っていました。そして、再検討の結果耐震補強は平屋部と2階建て洋館1階の一部に限定した耐震補強計画にしました。可能な限り現況を残すため、間取り変更なく、厚合板の耐力壁は既存土壁の裏にふかして取付ける方法を検討しました。他には後補アルミサッシュの窓は木製窓に、外壁の後補モルタル塗りや鉄



洋館（応接間）出窓と上げ下げ窓



和館8帖付書院

板張りも下見板へ、難しい洋館外壁モルタルは創建時の仕上げの復元、保管されていた各所の木製建具類の再活用、害獣の排尿跡の壁補修、取外されたベランダパーゴラの復活、古い和便器の復活、呼び鈴の復活、レトロ和風照明器具の選択、真鍮製スイッチコンセントプレートの復元等々細かい点まで及びました。更に、宮下氏の強い要望により、一部の部屋にアールデコ風天井や浴室の唐笠天井、洋館2か所に石膏引き天井中央飾りの取付けなど復古調に拍車がかかりました。

諸々の紆余曲折を経て、膨らむ宮下氏の要望と工事費に折り合いをつけた保全改修設計図書を整え、厳選した伝統工法を知る二社の建設業者に相見積もりを依頼し、再三の請負金額調整の上やっと2021年10月半ば過ぎ工期6か月をめどに工事契約と着工に至りました。

改修工事の様子は次回にお伝えします。



和館便所和便所の手水（チョウズ）



洋館2階洋間コルクタイル床



洋館玄関ポーチ



玄関内側